

- 葉活酢ワンダーランド
  - お酢（ビネガー）で農業を盛り上げたい
  - 発行者： キューピー醸造 梅本和夫
- 毎月15日前後発行（創刊 2021/4/16）

<http://www.kewpie-jyozo.co.jp>



..... by kewpie-jyozo .....

葉活酢をご愛顧いただき有難うございます。

3月も半ばを過ぎ、各地の桜開花予想の便りが聞こえてくるようになりました。春作の準備が本格化してお忙しくなる頃と存じます。

昨年4月に定期配信を始めて今回で12回目となりました。皆さまに葉活酢を通して得られた営農関係の話題をお伝えしたいと思っています。お酢（ビネガー）の良さを農業関係の皆様と共有出来れば幸いです。

今回は愛知県農業試験場さんの話題であります。

## 令和4年3月のトピックス

### <愛知県農業試験場畜産研究部さまの活動成果>

今回は愛知県農業試験場畜産研究部の活動成果を紹介いたします。

畜産現場では飼料高対策が課題となっています。令和4年1月16日の日本農業新聞に掲載された記事となります。

### 【乳牛餌に竹粉】資料高騰・荒廃地解消で一石二鳥

愛知県農業総合試験場は、乳用牛の飼料として竹を活用する技術を開発した。粉碎した竹に酢かすを加えて腐りにくくし、乾草の代わりに完全混合飼料（TMR）に10%ほど混ぜて与えると、摂取量や乳量の指標は慣行とほぼ同等だった。輸入飼料の高騰対策と放棄竹林対策の両方につながると期待する。

試験にはモウソチクを使用。粉碎機で粉状にした後、酢の製造工程の副産物である酢かすを重量比20%で添加した。酢かすを入れることで、水素イオン指数（pH）4前後にして、竹粉の腐敗を防ぎ、常温で保存できるようにした。

スーダングラスの代替としてTMRに約10%混ぜた。分娩（ぶんべん）後の乳用牛2頭に、115日間投与した。食いつきは良好で、飼料の乾物摂取量は、通常のTMRと比べて同等または上回っていた。乳量も良好で乳脂肪分で補正した4%FCM乳量も、通常のTMRを与えた牛と遜色がなかった。

竹粉は粉のため、その形状から飼料中の牧草全てを代替することは難しいという。同試験場は「放棄竹林が各地で問題となっている。未利用資源の有効利用に加え、輸入飼料への依存度を減らすことにもつながる」（畜産研究部）と期待を示す。

養鶏などでは、飼料に竹を混ぜる取り組みは一部で行われているが、今回は乳用牛に与え、詳しく調べた。

農水省の統計では、搾乳牛1頭当たりの経営コストのうち、飼料費が44.6%を占める。北海道を除き、飼料畑を確保しにくい都府県ではその割合がさらに高まる。(以上記事全文；日本農業新聞社の転記許諾済み)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS  
**日本農業新聞**

「炎上」対策の基本  
攻めと守りの運用戦略  
主編：日本農業新聞 広報課 編集開発部  
日時：2022年1月26日(水) 13:00~16:30

# 乳牛餌に竹粉

## 飼料高対策 荒廃地解消 一石二鳥

愛知県農業総合試験場は、乳用牛の飼料として竹を活用する技術を開発した。粉砕した竹に酢かすを加えて腐わにくくし、乾草の代わりに完全混合飼料(TMR)に10%ほど混ぜて与えると、摂取量や乳量の指標は横行とほぼ同等だった。輸入飼料の高騰対策と、放棄竹林対策の両方につながる見込みがある。

試験には、もろソウチクを使用。粉砕機で粉砕した後、酢の製造工程の副産物である酢かすを重量比20%で添加し、酢かすを入れることで、水素イオン指数(pH)4前後にして、竹の腐敗を防ぎ、常温で保存できるようにした。

スターダングラスの代替としてTMRに約10%混ぜた。分給(ふんべん)

### 愛知県農業総合試験場が技術開発

後の乳用牛の頭数に、1頭の有効利用に加え、輸入飼料への依存を減らすことが期待できる。畜産量は、通常のTMRと比べて同等または1割増えた。乳量も良好で、乳脂肪分も補正した4割増のTMR量も、通常のTMRを与えたときと遜色なかった。

竹粉は粉のため、その形状から飼料中の牧草全量を代替することは難しい。同試験場は「放棄竹林が各地で問題となっている。未利用資

農水省の統計では、搾乳牛1頭当たりの経営コストのうち、飼料費が44.6%を占める。北海道を除き、飼料畑を確保しにくい都府県ではその割合がさらに高まる。

人手が入らざる荒れた竹林



W **天敵有効 肝は「シェア」**  
鹿兒島 温存植物 作期異なる品目と

### アザミウマの活用

鹿兒島のJAいぶすきなどで、アザミウマの天敵としてアザミウマの天敵アザミウマ類の活用が広がっているが、アザミウマ類は防除効果が高いが、定着しにくいという課題があった。新技術は、生物として定着させる技術を開発した。アザミウマ類の天敵アザミウマ類の活用が広がっているが、アザミウマ類は防除効果が高いが、定着しにくいという課題があった。新技術は、生物として定着させる技術を開発した。



この取り組みが広がれば、飼料高対策と荒廃竹林活用が実現出来そうです。

弊社としては、お酢の持つpH調整機能と製造工程で発生する残渣の活用が見込める取り組みとして注目しています。「葉活酢ワンダーランド」の配信は第12号で始めたばかりの試みになりますが、ようやく1年間継続出来ました。これからも皆さまの応援を頂ければ有難く存じます。

また皆様方からのコメントも寄せて頂ければ大変光栄に存じます。

次回は4月15日の配信を予定しています。

お友達を紹介ください！！

ご紹介頂いた方へ、弊社特製のビネガードリンクを進呈させていただきます。

メール配信を希望されない場合はお知らせください。

最後までお読み頂き、有難うございました。